

平成30年 埼玉県校友会 学術講演会と新年会

平成30年1月28日（日）に前週の積雪が残る中、埼玉県校友会（以下 県校友会）の学術講演会と新年会がさいたま新都心のホテル・ブリランテ武蔵野において午後2時より開催された。

新年会に先立ち、恒例の「学術講演会」が丸山進一郎県校友会学術部長（66回）司会のもと、講師に渡邊文彦新潟生命歯学部歯科補綴学第2講座教授（66回）を迎え「適切なインプラント治療と健康維持増進」との演題で行われた。

講演は現在までのインプラント治療の変遷と、国民の求める治療内容やインプラント治療の様々な問題点、特に上部構造の破損、インプラント周囲炎さらには外科的な麻痺等のトラブルが説明され、それらを解決させるための様々な研究および臨床での応用例が視覚的にわかりやすく解説された。さらに適合に関与する正しい材質や印象法に関してもご教示いただいた。加えて近年の超高齢社会の影響、すなわち、インプラント体の入った患者の経時的な骨の変化（骨粗鬆症など）やリスク、認知症発症による口腔衛生管理（介護者の重要性）の難しさも説明されたが、それへの対処法（インプラント周囲炎に移行する前の粘膜炎の段階での予防や定期的な口腔ケアの重要性）にも言及された。そして結果的には、可撤性の義歯よりも固定性のインプラントを入れていた患者の方が、満足度が飛躍的に高く認知症になる確率も低くなる点が数値的にも明らかであった。講演終了後には質疑応答が行われ、中田裕之県校友会副会長（68回）より謝辞が述べられた。その後会場を移し、午後4時より「新年会」が開催された。

新年会は県校友会の蓮見和久福祉厚生副部長（76回）の司会のもと、初めに校歌斉唱が行われた。次いで、大宮一宏県校友会副会長（71回）の開会の辞に続き、小谷田 宏 県校友会会長（61回）より主催者挨拶が述べられた。ここでは、信頼の絆に結ばれた団結力の強化について校友会の現況が解説され、



渡邊文彦 教授



小谷田 宏 県校友会会長

財政の健全化についても、共済規定などが変更されたことや会費等検討委員会が設置され、現在も真剣に協議されている旨が説明された。

続いて近藤勝洪校友会本部会長、島田 篤 埼玉県歯科医師会会長、三ツ林裕巳衆議院議員、埼玉県選出の関口昌一参議院議員から各々来賓祝辞を賜った。その後、昨年の叙勲受章者のうち、瑞宝双光章の大崎良忠会員（53回）への祝い金の小谷田会長から贈呈され、大崎会員から謝辞が述べられた。

それから谷野日出人元県校友会会長で現・顧問（58回）の乾杯の発声にて祝宴は始まった。本年も恒例の餅つきが行われ、来賓の先生方も参加され楽しまれた。つきたての餅は食事として、またお土産としても活用され、参加者一同に大変好評であった。各人テーブルごと、あるいはテーブルを超えての昔話や世間話にしばしの間、華を咲かせていた。そして、宴もたけなわではあったが重竹淳一県校友会副会長（68回）より手締めが行われ、寮歌が県校友会役員や学生時代に体育会部員だった先生方を中心に壇上に上がって肩を組み、全員で心をつなげて斉唱された。その後、伴 智光福祉厚生部員（78回）から力強いエールがきられた。最後に黒須壽郎県校友会副会長（66回）の閉会の辞により、午後6時に平成30年の新年会は名残惜しくも盛況なうちにお開きとなった。

（松崎俊哉・76回記）